

# 令和5年度 京都府立木津高等学校 学校経営計画(スクールマネジメントプラン) (計画段階)

評価 4 達成できている 3 ほぼ達成できている 2 あまり達成できていない 1 達成できていない

学校経営方針(中期経営目標)	前年度の成果と課題	本年度学校経営の重点(短期経営計画)
<p><b>【ミッション】</b>                      ・多様な生徒たち一人一人を大切に、誰一人取り残すことなく、能力を最大限に伸ばし、進路を決めて卒業させる。                      ・伝統校としての歴史を継承しながらも地域の状況や社会の変化を踏まえた教育活動を展開し、地域から愛され、生徒一人一人が輝ける学校を目指す。</p> <p>1 地域との連携を深め、学習活動を公開するなど、地域から信頼される学校づくりを推進する。</p> <p>2 あらゆる教育活動をとおして、規範意識とコミュニケーション能力の向上を図り、自ら主体的に考え、正しい選択ができる生徒を育てる。</p> <p>3 自尊感情、自己有用感を高めるとともに、他者を思いやる心を育てる。また、安心・安全で充実した教育環境を整備する。</p> <p>4 自己理解を深めさせるとともに、目的意識を高めさせ、自らの進路を主体的に切り拓く能力や、責任ある行動力を身につけさせる。</p> <p>5 学習環境の整備や教職員の資質向上に努める。</p> <p>6 新学習指導要領の趣旨を踏まえた指導と評価の充実と、特色ある教育活動を展開する。</p> <p>7 ICT活用をさらに促進し、「個別最適な学び」「協働的な学び」が可能な学習環境の構築を推進する。</p>	<p>1 令和4年度は、引き続き新型コロナウイルス感染症拡大防止対策を講じながら、学習機会の保障に努めることができた。</p> <p>2 教育活動の中でも、学校行事では、昨年中止していた文化祭も学年別で実施した。第2学年研修旅行は、行先を沖縄方面に戻し3泊4日で実施したが、生徒のコロナ感染症が拡大対応に追われた。マラソン大会は3年連続で中止したため、今後も中止することとした。</p> <p>3 昨年4月、新入生の部活動加入率は、70%を超えた。新入生への部活動紹介も一助となっている。</p> <p>4 毎月の木津駅前クリーン活動にも、積極的に参加できた。</p> <p>5 学校評価アンケートの保護者回答では、「本校の教育は、保護者の期待に応えるものになっているか」の項目で肯定率70%を超えているが、さらなる向上を目指す。「生徒は、意欲的に学習に取り組んでいるか」の項目の肯定率が昨年度よりは上がっているが、最も低く60%である。学習意欲の喚起への工夫が必要である。また、生徒回答では、「本校に入学して満足している」が約70%であり学年が上がるにつれて上昇しているが、「本校の生徒であることを誇りに思う」との肯定率は65%であり、この肯定率を高めるよう努力したい。さらに、「毎日学校に来るのが楽しみである」についての肯定率も65%であり、次年度は少しずつ従来の教育活動に戻していきたい。</p> <p>6 南校舎の生徒のトイレ改修を行い洋式化した。</p> <p>7 観点別評価については、教科主任会議を中心に検討を重ね、一定評価方法等について全教員に共有できた。また、一人一台タブレット端末もスムーズに導入できたが、アプリの活用方法等について研修を含め今後も検討を進める。普通科探究エリア及び特進エリアの探究学習については、教育課程検討会議を設置し準備を進めることができた。</p>	<p>1 創立122年、木津高校の歴史と伝統、建学の精神を継承しつつ、新時代を見据えて、3つの学科において、それぞれ「主体的に学び考える力」「多様な人とつながる力」「新たな価値を生み出す力」の育成と充実を図る。</p> <p>2 進路希望の実現と自ら未来を切り拓く力を育成するために、学習活動において基礎基本を大切に、確かな学力の定着を図る。また、ICT機器の積極的な活用を推進し、「個別最適な学び」「協働的な学び」の構築を図る。</p> <p>3 規律ある学校生活と基本的な生活習慣の確立を図る指導を行うとともに、特別な教育的支援を要する生徒に対して、組織的に適切な支援を行う。また、教育活動にユニバーサルデザインの考え方を導入し、生徒が安心して過ごせる教育環境の整備を推進する。</p> <p>4 粘り強い学習指導を行い、原留・中退を限りなく0に近づけるため、さらなる指導の充実を図る。</p> <p>5 多様性の理解や人権尊重の意識を持ち、信頼で結ばれ成長し合う人間関係が構築できる学級経営や学校づくりを行う。</p> <p>6 地域等と連携した教育活動やボランティア活動を積極的にを行い、自己有用感と誇りを高める。</p> <p>7 危機管理の徹底を図り、安心・安全な環境づくりと自他の生命を大切に、生徒が健康で安全な学校生活を送ることができるよう、健康安全教育および環境美化教育の充実を図る。また、施設設備のさらなる整備に努める。</p> <p>8 学校・家庭・地域がコミュニティとして、それぞれの強みを活かしてつながる教育を推進する。</p> <p>9 選ばれる学校づくりのために、広報活動をさらに充実させ、地域・中学生及びその保護者へ、木津高校の魅力を発信する取組を推進する。</p> <p>10 不断の授業改善に努めるとともに、教職員のスキルアップのため、研修の充実を図る。</p>

分野	評価領域	重点目標	具体的方策	評価	成果と課題
教務部	修学保障	原級留置・中途退学者数を限りなくゼロに近づけるよう全校体制で指導を行う。	校務システムにおける日々入力を安定的に運用し、欠席過多生徒の情報共有を担任と教科担当間でより緊密にする。また、欠席過多生徒・成績不振の生徒に対する指導について学年部のみではなく、各教科担当との連携を密にし、昨年度の数より減少を目指す。 各学期の中間考査後、K-Alertを全教職員に配付することや、各学期末においても成績会議を開催することで、各生徒の成績状況の情報共有を図るとともに、成績不振生徒に対する丁寧な学習指導に力を入れる。「授業を大切にしよう」を活用し、課題を抱える生徒への面談やアプローチの仕方について、より効果的な実施の仕方、時期を検討する。		
	学習指導	ICTを活用した授業を推進し、「個別最適な学び」「協同的な学び」の構築を推進する。また、授業規律を確保するとともに、授業改善を推進し生徒の学力向上を図る。	昨年のICT活用のノウハウをいかし、2年目をむかえたタブレット端末導入の推進やClassiをより効果的に活用し、授業改善につながる取組（公開・研究授業週間、授業アンケート等）を効果的に実施し、授業改善を通じて学力向上につなげる。 学力向上につながる取組を他分掌と連携して効果的に実施する。		
	学校運営	新学習指導要領の趣旨を踏まえた「指導と評価の一体化」及び新教育課程の適切な実施を目指す。	昨年度実践した木津高校としての「指導と評価の一体化」をさらに推進し、生徒の学力についてより適切な評価を行い、通知票・指導要録に反映させる。また、新教育課程の導入を適切に行い、年次進行の完成を目指していく。		
	図書館活動	図書館での活動を通して、生徒の学力・人間力の向上を目指し、社会で通用する能力を身につけさせる。	生徒及び教職員に図書館の利用を促進する。 図書委員会の活動に生徒たちを積極的、主体的に取り組みさせる。Classiを活用するなど、有効な広報活動を行う。		
生徒指導部	生徒指導	基本的な生活習慣の確立と規範意識の醸成を目指す。	社会の一員としての自覚を育てるために、定められた時間に登校できるよう毎朝校門にて、あいさつ運動とともに遅刻防止指導を行う。 登下校時を含め、学校生活全体を通じて、身だしなみが整った状態で過ごすことができるよう統一した指導を行う。月に1度、徒歩・自転車・電車等のマナー指導を行う。 携帯電話やスマートフォンのモラルを教え、使用ルールを遵守するよう、統一した指導を行う。		
		保護者や地域、関係機関と連携し、安心・安全な学校生活の構築を図る。	保護者や外部関係機関と連携を密にし、生徒の安心・安全に留意した指導を行う。 いじめの早期発見・早期解決といじめを許さない心の育成指導を行う。		
	特別活動	規律ある集団生活の中で、生き生きとした教育活動を推進する。	生徒会、クラス委員、部活動の校外外での奉仕活動、人権学習等を通して、地域への連携を深めるとともに他者を思いやる心を育てる。 部活動に参加しやすい環境をつくり、自主性・協調性の向上を図り、達成感を得られるよう指導する。		
キャリア教育推進	進路指導	希望進路実現のために就職指導、進学指導体制を充実させる。	就職希望者に対する指導については学年との連携を密にし、希望者全員の内定を得る。 特別進学プログラム～守破離～を活用し、担任を中心に各学年及び各教科と連携しながら目的意識を高めさせ、「主体的に学び考える力」の育成を促すことで、生徒のさらなる学力の向上と進路実現を図る。 進路シラバスを基にした系統的な進路学習を各学年と連携して実施するとともに、生徒が主体的に進路選択できるよう適切な情報提供を行		

進 部	教育企画	本校の教育活動に興味・関心を持つ中学生に本校の魅力を伝え、特に木津川市、相楽エリアにおいて選ばれる学校を目指す。	い、希望進路実現を図る。 各学科、分掌、部活動と連携して、学校説明会、学校公開、授業体験の実施により本校の魅力を伝える。また中学校訪問や中学生向けの進路ガイダンスを積極的に行う。 ホームページとSNSを積極的に活用した情報発信を行う。またPTAと連携し、会報などを利用し本校の教育活動を保護者に向けて適正に発信する。				
			各教科担当と連携して校内の探究活動を推進し、普通科の特色化を進める。				
保 健 部	健康・安全	清掃活動の充実を図り、他を思いやる心を育む。	事務部と連携し、清掃道具の整備と充実努める。清掃の仕方を明確にし、生徒が自ら主体的に清掃活動に取り組みやすい環境を整える。				
		保健活動を通して、生徒の健康・安全を守るとともに将来に繋がる取組を行う。	各種検診を実施し、保健活動を充実させる。環境整備の点検を実施する。				
		支援を要する生徒が自己理解を深め、自ら主体的に進路を切り開く能力を育てる。	SCやSSWを交えて学校適応推進会議や特別支援校内会議を開催し、個別の指導計画を作成し、必要な支援や配慮を行う。 特別な支援を要する生徒に対して、自分に合ったスタディスキルやソーシャルスキルを見つけることで自立と進路を選択する能力を身につけさせる。				
農 場 部	農場経営	GAP（農業生産工程管理）を基礎においた農場運営を行う。GLOBALGAPの認証継続を目指す。	農場管理記録簿を全部門で記入し実習計画に応用する。 作業の安全を第一とし、そのための整理整頓を実施する。 リスクを共有し対処できるようにする。				
		学科連携・地域連携・学校間連携をより充実させる。	情報企画科との連携内容を充実させる。  大学・自治体をはじめ、他校種との学校連携を充実する。				
情 報 企 画 部	学科経営	「人間性豊かな職業人の育成」を理念とした諸活動を推進する。	生徒の能力を最大限に伸ばすために、学科・地域と連携した取り組みをさらに充実させ、情報企画科の特色と魅力をより明確にする。 時間・あいさつ・身だしなみの規律を定着させ、「主体的に授業に向かう」ことを重点項目として全学年に周知し、教員・生徒が共に徹底して取り組む。				
		商業科の専門性を生かした進路実現を支援する。	専門性を生かした進路実現のため、担任と連携して個別最適化した指導ができるよう協議する。				
		専門学科の魅力についてより広く認知されるよう、広報活動の充実を図る。	情報企画科の取り組みを積極的に発信し、地域住民や中学生に学科の魅力をアピールする。 中学生へのマナー講習会の出前授業を行い、学科の取り組みや魅力を知ってもらう機会とする。				
第 一 学 年 部	学校生活	授業規律を守り、授業を大切にす。教育環境を作り、健康で社会性豊かな集団を育成する。	規則・ルールを守らせる等の規範意識の確立を図る。  礼儀正しく、授業を大切にすることで、学習環境を整え、基礎学力の定着を図る。 身だしなみや挨拶、時間を守ることの指導を徹底する。  保護者との関係を築き、生徒の成長を図る。				

		部活動および学校行事に積極的に参加する姿勢を養う。	部活動参加を積極的に推進する。 校外学習・文化祭・体育祭等の行事において、主体的計画のもと、協力して取り組ませる。			
第二学年部	学校生活	規律ある学校生活と基本的な生活習慣を確立し、確かな学力の定着を図る。	規範意識の徹底を図る。 授業を大切にす環境づくりと放課後学習会等の実施で、学習習慣と基礎学力の定着を図る。			
		進路に対する意識を高め、自ら目標を定める。	日常的な進路指導や、担任・キャリア教育推進部や保護者との連携を図り、定期的に面談を実施し、自らの進路希望の実現と未来を切り開く力を育成する。			
		思いやりの心を育み、人権意識を高め、社会性豊かな集団の育成を図る。	人権学習や平和学習を通して、多様化を理解し、互いの人権を尊重しながら、信頼で結ばれ成長し合う人間関係を作る。 安心・安全な環境づくりと自他の生命を大切にし、健康で安全な生活をおくることができるよう、健康安全教育および環境美化教育の充実を図る。 校外学習や研修旅行、体育祭や文化祭など、充実した学校行事の実現に向け、事前・事後学習を計画的に行い、集団のリーダー育成にも取り組む。			
第三学年部	学校生活	進路実現と社会性豊かな資質を身につけさせる。	生徒の希望進路実現にむけ、保護者との密接な連携のもと進路指導をすすめる。 成人年齢の18歳引き下げに伴い、より一層社会の一員としての自覚を持たせるために、身だしなみを整え、相応しい言葉遣いなど礼節が養われるようにする。 学校行事や人権学習、清掃活動など日常の活動を通して、自他を大切にすコミュニケーションの大切さを自覚させる。			
事務部	施設設備管理 予算管理	安全安心な環境作りと予算の効果的活用	施設担当者・技術担当者を中心に施設・設備の点検を実施し、危険箇所等には、早急に対応する。 義務的経費の削減（節電、節約）に努め、教育環境の整備、教育活動の向上のための予算を確保し、学校経営の重点目標達成に向け効果的に予算を活用する。			
	I C T環境の 整備・活用	I C T機器の整備・活用	教育活動その他学校運営にI C T機器が活用できるよう必要な整備を行う。 I C T機器の事務部からの情報（お知らせ）にI C T機器を活用し、情報が保護者に迅速に伝わるようにする。			
	職員のスキル	適切な会計事務処理と共通理解	職員相互のチェック・確認体制を確立し、適切な会計処理をおこなう。 事務部内でそれぞれの仕事内容を共有し、共通理解を図る。			

学校関係者評価委員会 による評価	
---------------------	--

次年度に向けた改善の 方向性	
-------------------	--